

避難所のみなさんに温かい物を食べてほしい！

炊きだしボランティア
泉病院・東病棟



具 だくさんのサケ汁を昼食に届けました



参加者のみなさん 味も最高でした！



多賀城市文化センターの中庭には行列が

野菜たくさんの鮭汁600食分を準備

被災された人たちのために、自分たちで何かできる事はないだろうか！ 5月24日、泉病院東病棟では、有志で相談し、「避難所の人たちは温かいものが食べれていない」と知り、炊き出しボランティアを行う事を立案し、病棟の協力を得ながら、避難所になっている多賀城市文化センターで炊き出しを行いました。

この日参加したのは、近藤彬正、田村広野、加藤いずみ、葛西みや子、葛西信義、栗原恭子、佐々木あゆみ、佐々木敬定、神倉功、湯本朋己のみなさん。

メニューは鮭汁で、600食分を用意しました。鮭をメインに、野菜もあまりとれていないだろうと大根、ニンジン、白菜、タマネギ、きのこ、コンニャク、豆腐など具だくさんでした。

野菜などはセントラルキッチンとの協力を得ながら準備、鮭はインターネットで購入しました。炊き出しの道具は友の会から借りたり、レンタルや一部購入したものもあります。財政は泉病院でカンパを訴えたら、多くの職員から協力を頂き、十数万円が集まり、とても感謝していますと話していました。

多賀城市文化センターには、現在390人の避難者がいますが、開始の15分前には行列ができていました。ボランティアさんが行列を整理してくれて、5、6人ずつ井を受け取る形で、混雑することはありませんでした。

◇沢村良治さん(68)は、多賀城市八幡3丁目で津波に遭い、自宅は全壊で、避難所生活は70日以上にも及びます。「とても美味しいです。避難所ではパンやおにぎり、お茶、弁当も出る事もありますが、温かい汁物は殆どなく、とてもありがたいです」と話してくれました。この日は、避難者や現地ボランティア、自衛隊の方等400人が食しました。

炊き出し提案者の一人でもある近藤さんは、「喜んで食べていただいととても嬉しいです」と話してくれました。また、6月7日と14日、高砂市民センターから100食の炊き出しの依頼があり、現在検討中との事でした。炊き出しボランティアに参加できる方、また、炊き出し支援カンパなどありましたら、ぜひご連絡頂ければとの事でした。

韓国の李明博大統領の手は硬かったよ

5月24日、炊き出しボランティアと同じ頃多賀城市文化センターには民医連の医療チームが入っていました。

佐藤はるえさん(77)は、5月21日に韓国の李明博大統領と握手をした。手は硬くて目がとても優しく、2日間手を洗わなかったよ、他にも橋幸夫や山本リンダも来たんだよと教えてくれました。

フットケアを担当した両角幸矩さん(山梨)は、「佐藤さんは避難所生活で大変なのにとっても明るくて、逆に元気をもらいました。あの明るさは避難所の人たちを、元気にしてくれていると思います」と話してくれました。



Vサインする両角さんと佐藤さん

手作りカード届く

手作りカード協会からかわいらしいメッセージ入りのカードが宮城県民医連に届きました。子どもからお年寄りまで心を込めて作った作品582枚です。早速、5月28日、名取で開催される「移動なんでも相談会」で配布予定です。

